令 和 7 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （県立秩父農工科学高等学校 定時制課程）

目 指 す 学 校 像	・生徒に社会でたくましく生きていくための力を身につけさせる学校 ・地域の要望に応える学校

重　点　目　標	1　授業時間の確保と充実を図り、わかる授業への取組による基礎学力の向上 2　基本的生活習慣を確立し、自主性と自律心の育成による就業支援及び進路実現 3　地元企業等との連携による、地域から信頼される学校づくり

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
７年　度　目　標					７　年 度 評 価 （　月　日 現 在 ）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 基礎学力が定着していない生徒や様々な支援を必要とする生徒が多数在籍している。 【課題】 生徒一人一人に寄り添いながら、基礎学力の定着に向けた授業の工夫や個に応じた支援が必要である。	生徒一人一人に寄り添った支援の拡充や基礎学力の定着に向けた学習指導	①「わかる授業」実現に向けた補習や個別指導などの取組。 ②一人１台端末を活用した授業、教科横断的な授業など、指導方法や評価方法の改善につながる取組。 ③学習サポーター等を活用した一人一人に寄り添った学習指導の取組。 ④授業研究週間を中心とする授業改善の取組。	①授業アンケートで、授業に対する理解力向上の数値が向上したか。 ②成績不振者が前年度より減少し、成績優良者が増加したか。 ③授業研究週間中に全教員が互いに授業を参観したか。 ④学習サポーターによる支援で、数学の基礎力定着度が改善したか。				
2	【現状】 欠席・遅刻の多い生徒は基本的生活習慣が身についていない。そのため進路実現に向けた主体的な行動ができないケースが散見される。 【課題】 実社会で必要なルールやマナーを学びながら、社会における自分の役割や職業観などについて、自ら学ぶ態度を育成し、就労支援を行いながら安定した社会生活へ繋げていく必要がある。	基本的生活習慣の確立	①担任会議を定期的に開催し、学年を超えた情報を共有し、生徒一人一人の状況を適切に把握する。 ②保護者との連携を密にするとともに、必要に応じスクールカウンセラーと繋ぎながら、生徒一人一人に寄り添う支援を行う。	①欠席・遅刻等の出欠状況が前年度より改善されたか。 ②保護者やスクールカウンセラーとの連携を密にすることで、出欠状況に問題がある生徒の生活習慣に改善が見られたか。				
		生徒一人一人に寄り添った進路指導と進路実現及び就労支援	①進路ガイダンスやキャリアパスポートを活用し、生徒一人一人の進路意識を高める。 ②校内だけでなく、地域の教育力を活用した面接指導などを行い、実社会への接続を強化する。	①事業主連絡会（ＥＴＡ）による進路ガイダンスを実施し、進路意識の向上や職業観を育成できたか。 ②就職支援アドバイザーによる就労支援により就職の実績が向上するとともに、就労支援に繋がったか。				
3	【現状】 定時制を支援する会や事業主連絡会（ＥＴＡ）など、地域社会から組織的な支援をいただいているが、定時制教育に対する周知、理解が不十分な状況にある。 【課題】 様々な生徒がいる中で、定時制の役割や必要としている生徒に対する周知・理解を推進する。	定時制教育に関する情報の発信	①ホームページの更新回数を増やし、定時制における教育活動や現状を迅速に情報発信する。 ②定時制を支援する会の会報の作成に協力しながら、幅広い年齢層の人たちにに向けた情報を発信する。	①学校行事のみならず、日常の様子も含めた更新を随時行い、アクセス数が前年度より増加したか。 ②定時制を支援する会の会報作成において、多くの情報を提供し、内容を充実させることができたか。				
		定時制に関する教育活動への理解度向上	①事業主連絡会や定時制を支援する会との連携強化を図るとともに、全日制とも連携した取り組みを充実させる。 ②学校見学や授業見学等は随時積極的に受け入れる。また、学校説明会等、全日制と連携しながら定時制の理解度の向上を目指す機会を増やす。	①事業主連絡会や定時制を支援する会と公開授業や文化祭などを連携して開催し、定時制教育の理解を深めることができたか。 ②保護者の学校行事への参加や見学の機会を増やし、定時制教育の理解を促進させることができたか。				